

令和7年度 シラバス作成の要領

■ シラバスの定義

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。

(出典：中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申) 2008年12月)

■ 授業計画（シラバス）の役割

①授業選択ガイドとしての機能

選択の機会がある場合には、科目選択の基準として機能する。学生は、自分の興味・関心や学力に見合った内容かどうかを判断する材料として用いる。

②担当教員と受講する学生との契約書としての機能

記載されている内容は、担当教員と受講する学生との契約事項になる。担当教員は記載された通りに授業を実施することを学生に対して約束し、受講する学生は記載された事項を遵守することで、相互に良好な学習環境を作る。

③学習効果を高める文書としての機能

授業全体の中で、今回の授業がどこに位置づけられているのかを確認したり、授業の目的・到達目標を繰り返し確認することは、学習効果を高めることにつながる。テストやレポートの内容を記載することで、受講する学生が計画的に学習する習慣や、授業時間外学習をする習慣を身につけることができる。

④授業の雰囲気を伝える文書としての機能

内容を丁寧かつ詳細に記述することで、授業がしっかりと計画されたものであることを印象づけることができる。

⑤授業全体をデザインする文書としての機能

内容を丁寧に書き、各回の授業で扱う内容や参考文献を考えることで、担当教員自身が授業全体の流れをイメージすることができる。この過程で、不足していること、重複していることなどが見えることがある。一度、しっかりととした授業計画（シラバス）を作ると、同じ科目を再度担当する際には、見直しと改善をすれば良くなり、授業の準備を効率的にする。

⑥学科・課程・専修・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能

学科・コース全体のカリキュラムを統合し、一貫性のあるものにすることを支援する。すなわち、詳細に記載されていれば、他の教員もその科目の内容を詳細に知ることができるために、他の科目の授業計画（シラバス）を見ると、自分が教える学生がこれまでにどのようなことを学習しているのかを把握することができる。

⑦授業の改善につなげる機能

担当教員は、作成する作業を通して、授業の全体像をより具体的にすることができる。授業を設計する能力を向上させることは、授業での話し方、板書のしかた等、授業のやり方を改善・上達させることにつながる効果をもつ。

(参照：佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部 2010年、夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子『大学教員準備講座』29頁以下玉川大学出版部 2010年)

■ Web シラバス入力項目及び留意事項

①英文名称

講義名の英文名称を記載してください。

【記入例】(講義名：情報処理基礎)

Fundamentals of Information Processing

②実務経験のある教員による授業科目 (○／×)

6 ページの「実務経験のある教員による授業科目とは」を確認して、実務経験のある教員による授業科目であれば○ (記号のマル) を入力してください。

【記入例】

○

③授業のねらい、概要

学生が授業の全体像を把握できるよう、授業のねらい（目的・意義）及び授業で扱う軸となるテーマ等を簡潔に記載してください。

【記入例】

海洋生物科学科では、海洋の生物と環境についての深い理解にもとづいて、海洋の環境と生態系の保全、あるいは海洋生物資源の持続可能な利用に主体的に取り組み、循環型社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的として掲げ、4 つの専門分野に分かれて様々な切り口からこのテーマに取り組んでいる。本講義では各分野で実施している卒業研究の背景、研究のねらい、最終的な目標などについて理解を深める。

(注) 実務経験のある教員による授業科目のシラバスにおいては、その専門分野に従事することで得られた知識・技能・実務経験などを学生に教授することを明確に示してください(6 ページ「実務経験のある教員による授業科目とは」参照)。

④ディプロマ・ポリシーとの関連

科目が開設されている学科等のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）のどの事項に該当しているのかを記載してください。

【記入例】

この科目は、海洋生物科学科のディプロマ・ポリシー*の中で、次の部分に該当している。

「海洋環境と生物に関する基礎知識を持ち、海洋生態系の成り立ちを理解している。」

「自然科学に対する興味や関心を持ち続け、自主的・継続的に学習することができる。」

*科目的対象学部・学科に応じて「●●学部のディプロマ・ポリシー」、「○○学科のディプロマ・ポリシー」、「福山大学のディプロマ・ポリシー」に置き換えて記載してください。

⑤授業（学修）の到達目標

授業を通して身につけることが期待される知識・能力等について具体的に記載してください。

【記入例】

1. 赤潮や底層の貧酸素化が起こるメカニズムを説明できる。
2. これまで実施してきた赤潮対策の概略を説明できる。
3. 沿岸環境の保全のあり方について自らの考えを述べることができる。

※学生を主語にして「・・・できる」「・・・することができる」「・・・できるようになる」等のように学習者側の行動（行為動詞）で示してください。

(注) 実務経験のある教員による授業科目のシラバスにおいては、その専門分野に従事することで得られた知識・技能・実務経験などを学生に教授することを明確に示してください(6 ページ「実務経験のある教員による授業科目とは」参照)。

⑥授業計画表

それぞれの授業回で扱う内容〔テーマ（キーワード）〕及び準備学習（予習・復習）内容・時間を簡潔に記載してください（定期試験は含めません）。

注1) 複数回にわたって同様のテーマを取り扱う場合は、単にナンバーを振るだけでなく、キーワード等を併記して区別してください。

注2) 複数教員で担当する場合は、各回の**担当者名を括弧書き**で追記してください。

注3) それぞれの授業回について **準備学習（予習・復習）内容・時間を記載** してください。

授業成果の達成度を高めるため、また授業以外での自学自習を促すため、授業外学修に**必要な時間**とそれに準じる程度の具体的な**学修内容**について**必ず記載してください**。

※大学設置基準第21条では、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定められています。授業時間外の必要な学修（予習・復習等）は、2単位の講義科目であれば合計（予習・復習）で、各回4時間が必要となります。

【記入例】

回	内 容	予 習	復 習
第1回	間接金融と直接金融（佐藤）	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 [0.5時間]	セレッソに掲載している資料により、予習（又は復習）を行うこと。 [1.5時間]
第2回	企業の資金調達行動（1） 不均衡分析（鈴木）	テキスト指定範囲を事前に熟読し、レポートにまとめておくこと。 [1.0時間]	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 [2.0時間]
第3回	企業の資金調達行動（2） 理論と実際（高橋）	教科書の該当部分（授業時間内に指示する）を予め理解した上で授業に参加すること。 [2.0時間]	授業内容をよく復習し、授業中で出てきたキーワードを説明できるようにしておくこと。 [2.0時間]

注) 実務経験のある教員による授業科目のシラバスにおいては、その専門分野に従事することで得られた知識・技能・実務経験などを学生に教授することを明確に示してください（6ページ「実務経験のある教員による授業科目とは」参照）。

注4) アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた授業を実施している場合は、以下の用語を「授業の内容」欄にその旨を記載してください。

アクティブ・ラーニング関連ワード	
PBL、課題解決型、問題解決型	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ばせる方法。
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。
ディスカッション、ディベート、対話・議論型授業	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める方法。特定のルールの下で議論の勝敗を競うディベート方式も含む。
グループワーク	学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。2人組によるペアワークも含む。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。
フィールドワーク	学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる方法。学外施設等の見学を含む。
ロールプレイ	学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。

調査学習	学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。
事前学習型授業	教科書／参考書等（動画教材は除く）により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。
双方向型授業、双方向アンケート	授業中にICT機器（セレッソ等）やコメントペーパー等を利用して、教員と学生による双向的な対話を行わせる方法。
その他	その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。

⑦修得しておくことが望ましい科目等

履修の順序性や科目の関連性の観点を踏まえ、事前に修得しておくことが望ましい科目や必須の科目を記載してください（特にない場合は「特になし」と記載してください。）。

【記入例】

3年前期までの化学系科目	/	応用○○Ⅰ・Ⅱ、○○入門、基礎○○
特になし		

⑧履修上の注意事項等

履修の際に必要とされる知識・能力等や、各回の講義内容をより深く理解するための取り組み方等を記載してください。

【記入例】

双方向型授業を実施するので、ICT機器を必ず持ち込むこと。
事前に配付する資料を読み、内容に関する討議ができるようにしておくこと。
各授業回の指示にあるとおりテキスト等の予習・復習を行うこと。特に復習には力を入れて行うようにし、理解が不十分な箇所については質問し、次回の講義までには理解しておくように努める。

⑨定期試験

定期試験とは「授業計画表」の授業回数とは別に、大学が定めた定期試験期間中に試験を行うものを指します。定期試験期間中の実施の有無を、「実施する」「実施しない」で記載してください。

【記入例】

実施する	又は	実施しない
------	----	-------

⑩成績評価の方法・基準

授業の成果（学修到達目標の達成度）を測定する方法や基準について記載してください。評価方法・基準が複数ある場合は、その配分率を具体的に明記してください。**※出席回数を評価に加えることはできません。**授業への出席は成績評価の前提であり、加点要素には使用しないでください。

【記入例】

中間試験（40%）および定期試験（60%）を総合して評価する。
定期試験（80%）、課題・レポート（10%）、小テスト（10%）により評価する。

⑪課題に対するフィードバックの方法

授業中に課したレポートや小テスト等に対する学生へのフィードバック方法を記載してください。

【記入例】

セレッソ上でレポート課題の解答例を示し、採点基準と注意事項は講義中に口頭で伝える
提出されたレポートは、コメントを記入して直接、返却する。
採点した小テストを当該学生に開示し、できなかつた問題について解説する。

⑫テキスト ⑬テキスト ISBN ⑭参考書 ⑮参考書 ISBN

使用するテキスト、参考書のうち必須のもののみ記載してください。複数のテキスト、参考書を記載する場合は、①、②・・・と区分してください。

書名／著者名／出版社名／出版年および ISBN を記載してください。

【記入例】

テキスト、参考書

(書名／著者名／出版社／出版年)

- ① ○○○○入門／○○○○○／○○出版／2021
- ② □□□ハンドブック／□□□□□／□□出版／2020

テキスト ISBN、参考書 ISBN

- ① 978-4-00-123456-7
- ② 978-4-1234-5678-9

⑯参考 URL-1～3 書名/説明 ⑰参考 URL-1

必要に応じて記載してください（記載事項が複数ある場合は「-2」「-3」の入力欄を使用）。

【記入例】

参考 URL-1-書名/説明

第十九改正日本薬局方／日本の薬局方の公定書

参考 URL-1

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinskyoku/JP17.pdf>

⑰オフィスアワー

学生からの質問や相談を受けられるように、オフィスアワーの時間・場所等を記載してください。

オフィスアワーは学生が教員の研究室等を訪ねる目安となりますので、「研究室に在室中であればいつでも可能」という表現ではなく、具体的な時間帯を記載してください。メールアドレスや電話番号等を記載しても構いませんが、学外公開されると支障があるものは掲載しないでください。

【記入例】

(専任教員の例) 前期／火曜日／3 時限／○号館研究室

後期／木曜日／4 時限／○号館研究室

(非常勤講師の例) 授業終了後／講義室

※非常勤の先生のオフィスアワーは、授業終了後に講義室で実施していただきますようお願いいたします。

高等教育の無償化（文部科学省）の対象校となるための認定機関要件の一つに、「実務経験のある教員等が一定以上配置されていること」という要件が設定されました。これを示すため、どのような「実務経験のある教員」が、その経験を活かしてどのような授業を担当して実践的な教育をするのかをシラバス等に記載する必要があります。

実務経験のある教員による授業科目とは

担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があつても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのかを明記しておくことが必要。

【実務経験の種別】

企業での勤務経験、ファイナンシャル・プランナー、税理士、学芸員、公認心理師、建築士、管理栄養士、薬剤師、医師、看護師、小中高等学校等の教員経験 など

【記入例】

- ファイナンシャル・プランナーの経験を有する教員が、ファイナンシャル・プランニング技能検定の実務科目について指導する。
- 日本銀行での勤務経験を有する教員が、実体と金融の両面から、日本経済の現状等について解説する。
- 学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、今日的な課題（いじめ問題、不登校等）への対応を指導する。
- 少年鑑別所等での勤務経験を有する教員が、非行・犯罪行動に関する心理学や社会学等の理論、非行・犯罪からの離脱を支援する教育方法について解説する。
- 臨床心理士の教員の指導の下、心理検査や心理面接（カウンセリング）に関する実習を行う。
- 臨床検査技師業務と教育に携わった経験を持つ教員が、生理機能計測の基礎から応用について講義と双向授業を行う。
- 薬剤師業務に携わった経験をもつ教員が、処方箋授受から服薬指導までの流れに関する基本的知識を講義する。
- 博物館で工芸担当の学芸員として勤務した経験を有する教員が、工芸や服飾の歴史について解説する。
- 教員は実務経験者ではないものの実務経験者が指導に関わる授業科目の例
 - ・行政政策の立案に携わっている者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な政策課題や立案の視点を講義する。
 - ・地元の企業経営者が、オムニバス形式により、経営理論や経営手法、地域社会への貢献の在り方について講義する。
 - ・行政や商業・農業施設等におけるフィールドスタディを通じて、課題解決に向けた実践的な地域づくりの在り方を学ぶ。
 - ・一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。

※授業のシラバス作成要領

どの授業科目が「実務経験のある教員による授業科目」であるか、学生等が分かるように、授業方法や内容、到達目標等とあわせて、シラバスに明記いただくことが必要です。

②実務経験のある教員による授業科目

実務経験のある教員による授業科目であれば○（記号のマル）を入力してください。

③授業のねらい、概要

⑤授業（学修）の到達目標

⑥授業計画表

上記の【記入例】を参考に、どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか明記する。